

令和5年3月

令和5年	1月	～	3月期	実績
令和5年	4月	～	6月期	見通し

# 中小企業景況調査報告書

岩手県商工会連合会

# 目 次

主要景況項目の動き	2
業況天気図	3
全産業の推移	4
製造業の推移	7
建設業の推移	11
小売業の推移	15
サービス業の推移	19
全産業の過去データの推移 * 平成15年1月以降	23
[集計資料]	

## D・Iとは

D・Iとは、ディフュージョン・インデックスの略です。これは、企業経営者の景気動向を表す指標として利用されています。

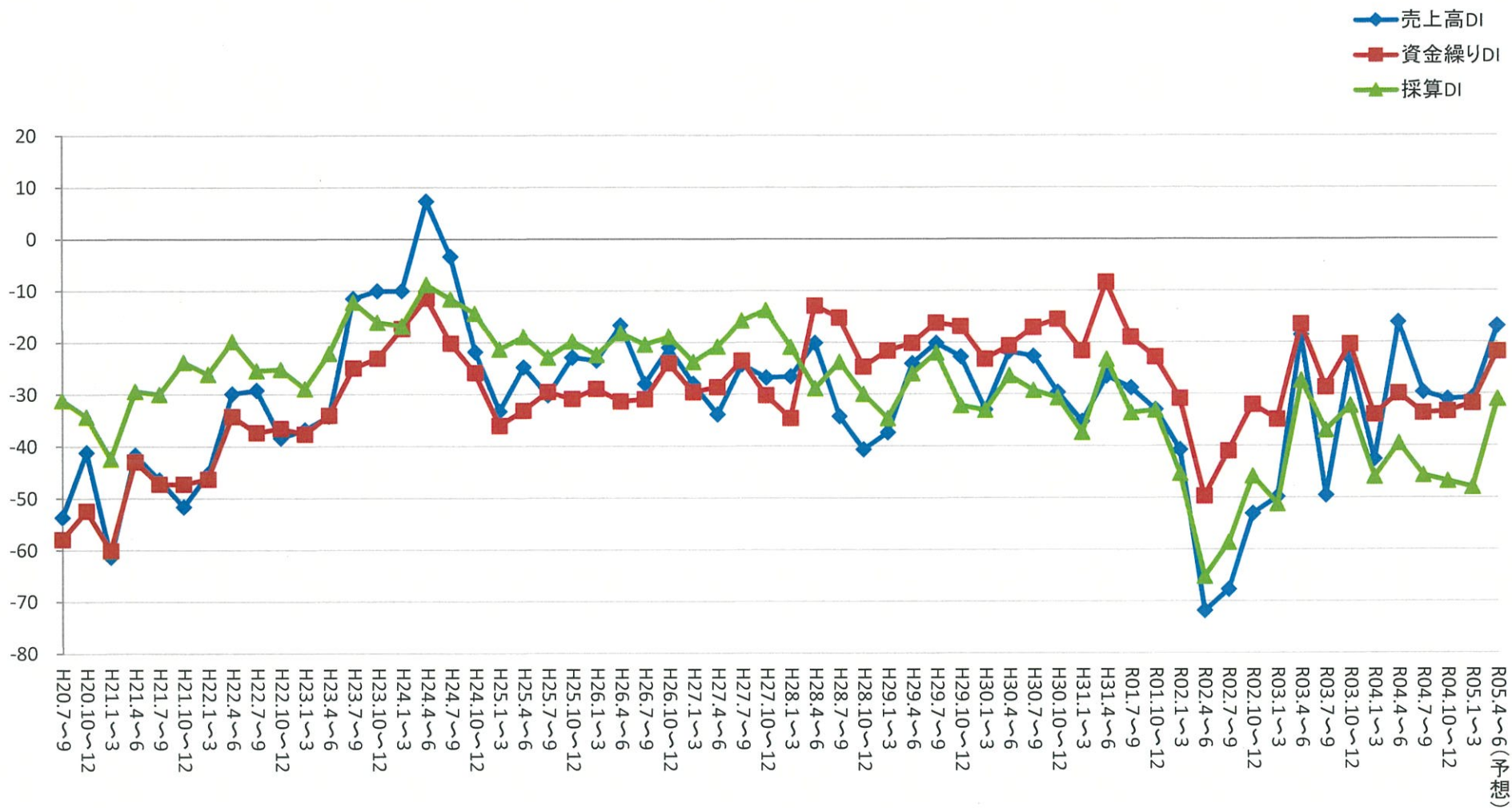
算出方法は、増加（上昇・好転）企業割合から減少（低下・悪化）企業割合を差し引いたものです。

D・Iがプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）、原材料または商品の仕入単価の場合はプラスなら上昇気運、マイナスなら低下気運となります。





































プラス、マイナス同数の場合はD・Iはゼロになります。






たとえば、売上高増加企業50%、不変企業30%、減少企業20%の場合、D・Iは $50 - 20 = 30$ となり、全体として経営者の売上高に対する強気の度合いを表しています。

主要景況項目の動き —前年同期比—



# 業 況 天 気 図

業 種	期 間			令和4年			(今期)	(見通し)	
	令和3年 4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	令和5年 1~3月	4~6月	
製 造 業	 薄 曇	 曇	 曇	 雨	 晴	 薄 曇	 曇	 曇	 薄 曇
建 設 業	 曇	 雨	 曇	 曇	 薄 曇	 曇	 雨	 雨	 雨
小 売 業	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 曇	 曇
サ ー ビ ス 業	 曇	 雨	 曇	 雨	 雨	 雨	 雨	 曇	 曇

売上高DI	100.0 ~30.1	30.0 ~10.1	10.0 ~△10.0	△10.1 ~△30.0	△30.1 ~△100.0
表 示	 快 晴	 晴	 薄 曇	 曇	 雨

# 全産業の推移

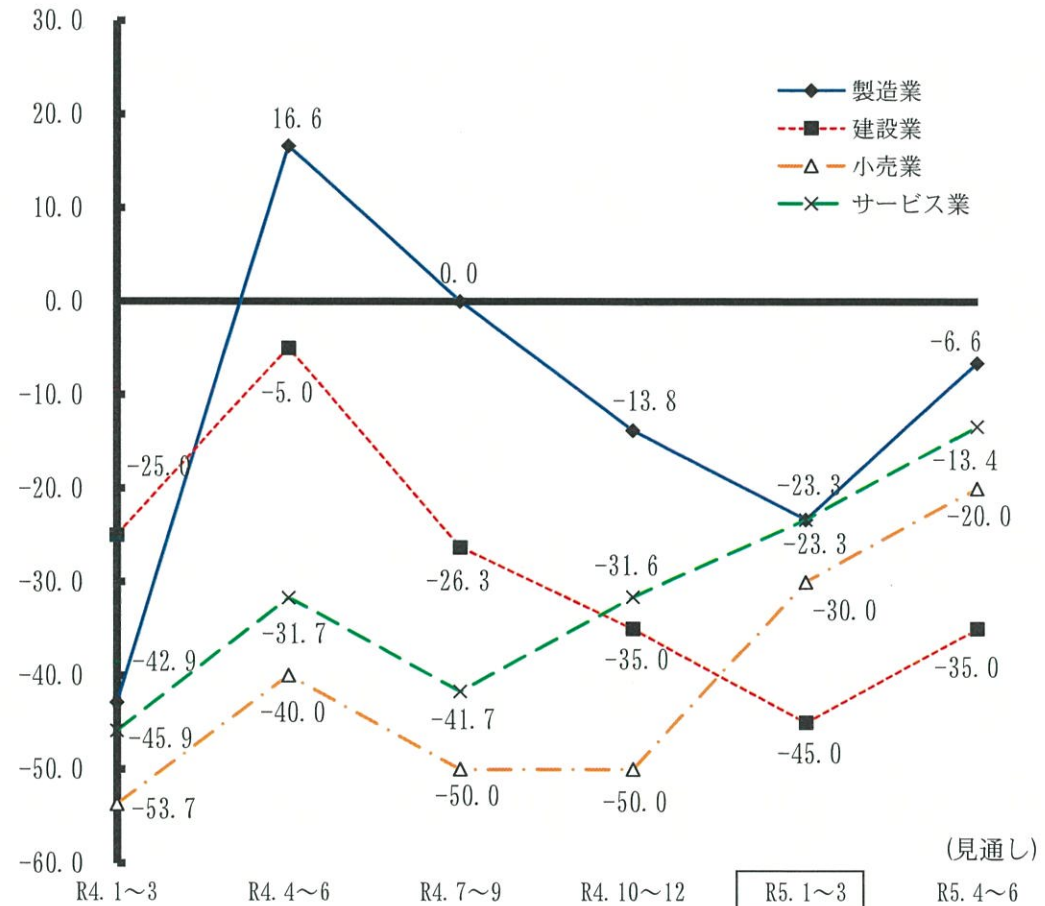
## 売上高

サービス業、小売業で売上高D・Iが改善  
製造業、建設業が悪化

今期の売上高D・Iは、サービス業、小売業が改善し、サービス業は2期連続の改善となりました。他方、建設業、製造業は3期連続の悪化となりました。サービス業は8.3ポイント増加して△23.3、小売業は20.0の大幅な増加となり、△30.0まで改善しています。製造業は9.5ポイント減少して△23.3、建設業は10.0ポイント減少して△45.0まで低下しています。

来期は、全産業において改善することが見込まれます。サービス業は3期連続しての改善、製造業、建設業も改善に転じる見通しとなっています。

※建設業の売上高は完成工事高



# 全産業の推移

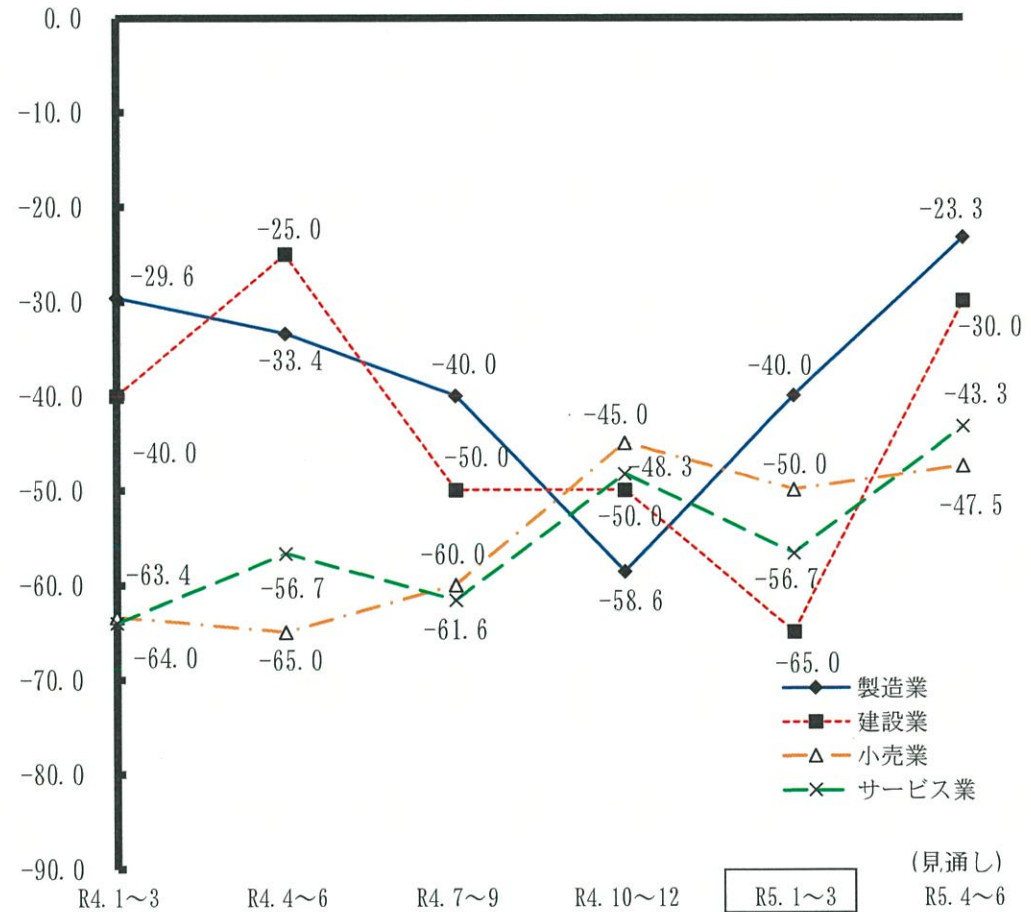
## 採算

製造業において採算D・Iが改善  
小売業、サービス業、建設業が悪化

今期の採算D・Iは、5期連続して悪化していた製造業が改善に転じましたが、小売業、サービス業、建設業が悪化となりました。製造業は18.6ポイント増加して△40.0まで改善しましたが、小売業は5.0ポイント減少の△50.0、サービス業が8.4ポイント減少の△56.7、建設業は15.0ポイントと大幅に減少して△65.0となり、依然として低いレベルで推移しています。

来期は、全産業において改善が見込まれます。今期大幅に低下した建設業が上昇に転じて大幅に改善するほか、他の3業種も改善することが予想されています。

※採算は各業種とも経常利益

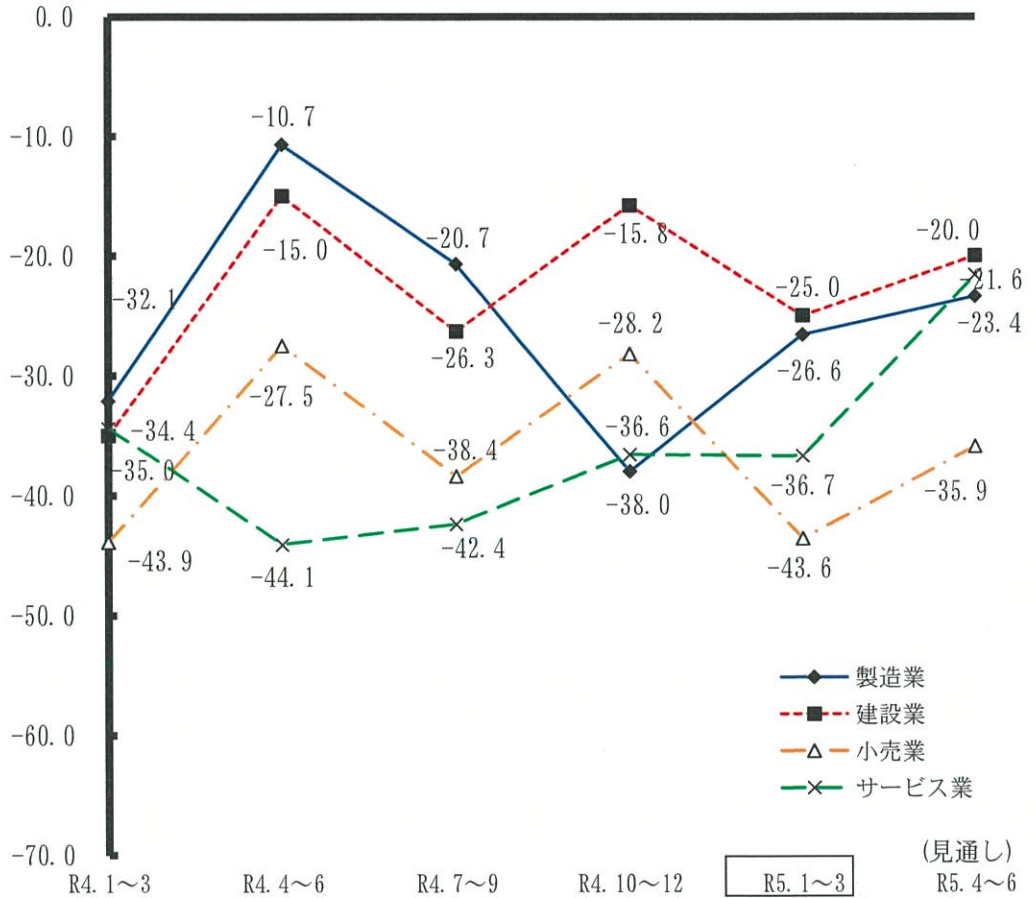


資金繰り

製造業を除く3業種において資金繰りが悪化  
製造業が大幅に改善

今期は製造業を除く3業種において資金繰りD・Iが悪化しました。前期改善に転じていた建設業、小売業、サービス業が悪化しています。建設業は9.2ポイント減少して△25.0、小売業は15.4ポイントの大幅な減少により△43.6となりサービス業もわずかながら減少して△36.7となっています。2期連続して悪化していた製造業は増加に転じ、△26.6まで改善しています。

来期は、全産業において資金繰りD・Iが改善することが予想されています。



# 製造業の推移

## 売上高

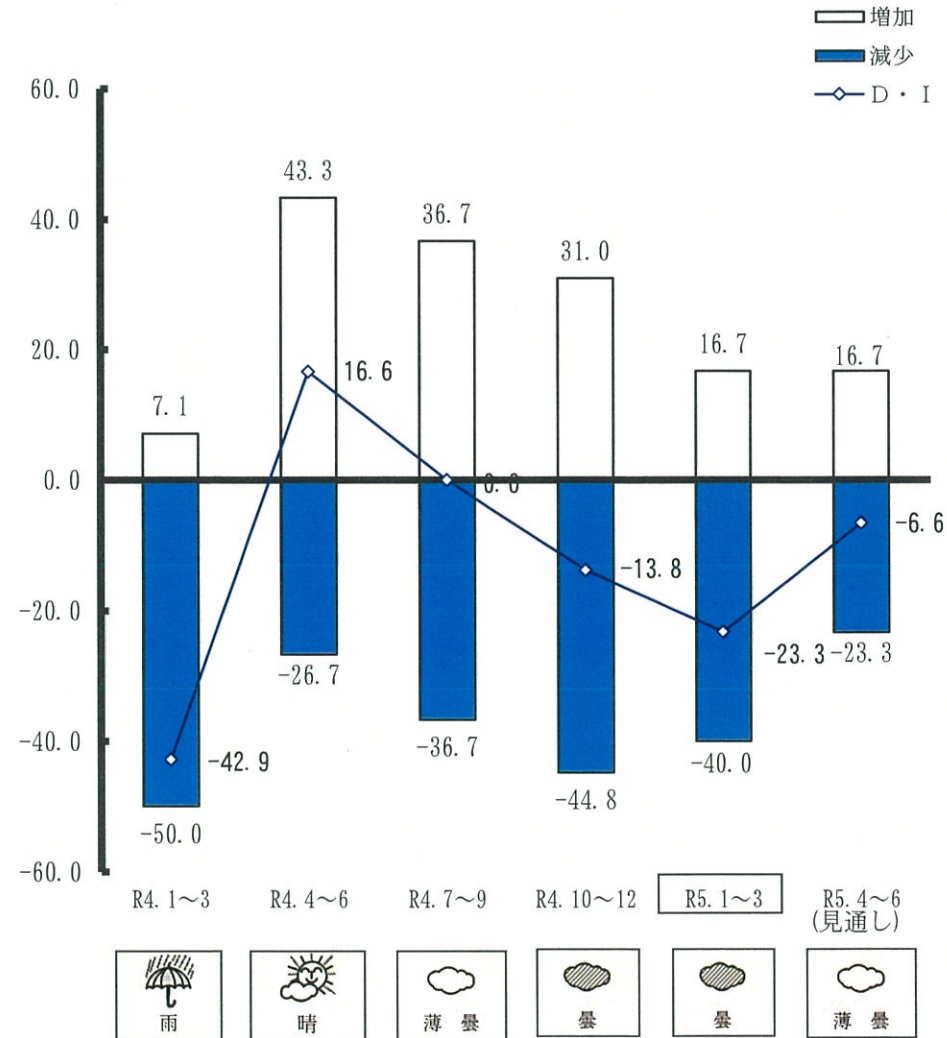
<今 期>

<来期見通し>



今期は、売上高増加企業の割合が14.3ポイント減少したものの、売上高減少企業の割合も4.8ポイント減少したことから、売上高D・Iは9.5ポイントの低下にとどまり、△23.3となって3期連続の悪化となっています。

来期は、売上高の増加を予想する企業割合は今期と横ばいに留まるものの、売上高の減少を予想する企業割合が大幅に減少することから、売上高D・Iは改善に転じ、景況天気図も曇から薄曇りへと変化する見通しです。





## 採算

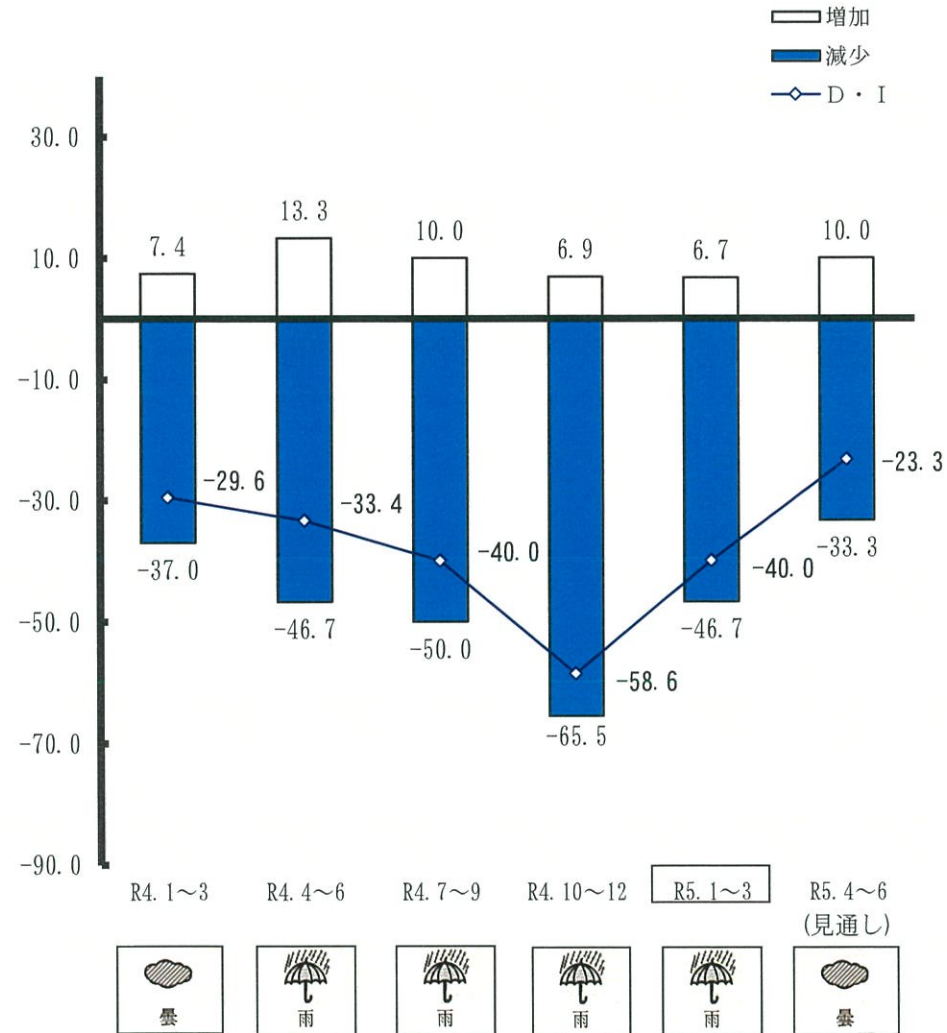
<今 期>

<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合はほぼ前期と横ばいにとどまったものの、採算が悪化した企業の割合が18.8ポイントの大幅な減少となったことから、採算D・Iは18.6ポイントの大幅な増加となり、△40.0まで改善しました。

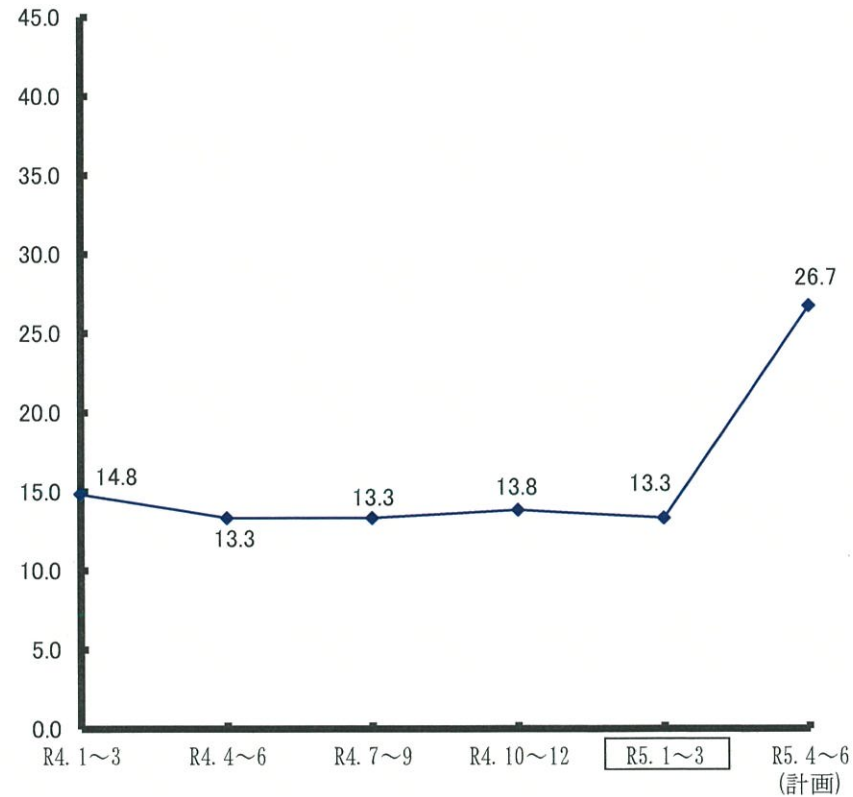
来期は、採算の改善を予想する企業が増加に転じ、採算の悪化を予想する企業も減少することから、採算D・Iは、連続して大きく改善することが見込まれ、景況天気図も雨から曇りへと変化することが予想されています。



## 設備投資

今期製造業において設備投資を実施した企業数の割合は、前期とほぼ横ばいの13.3となり、一定の数値を維持しています。

来期は、設備投資を実施する企業数の割合は大幅に増加することが予想されています。

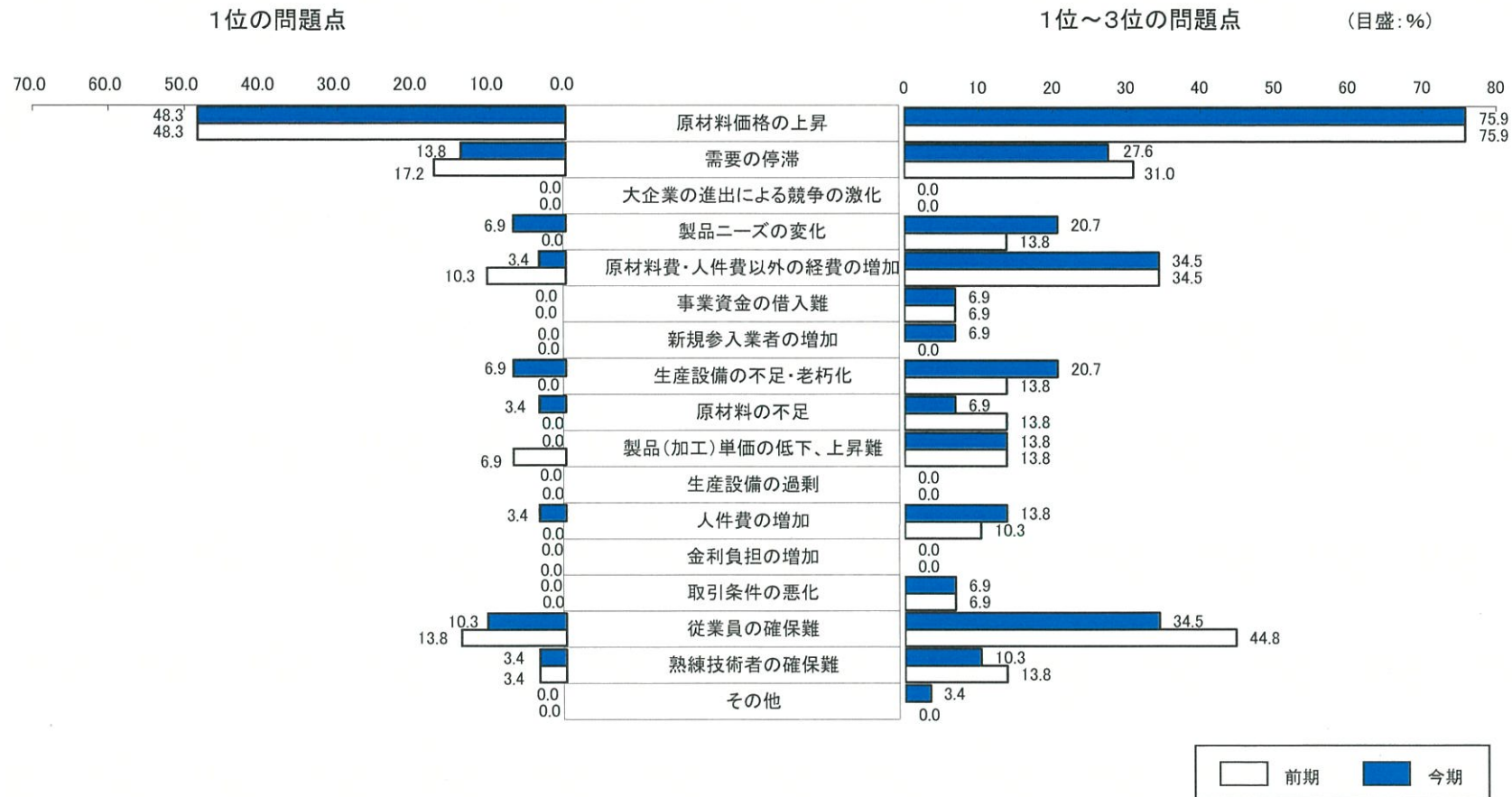


(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

## 経営上の問題点

岩手県 製造業

経営上の問題点の状況(1位と1位~3位)



# 建設業の推移

## 売上高

<今 期>

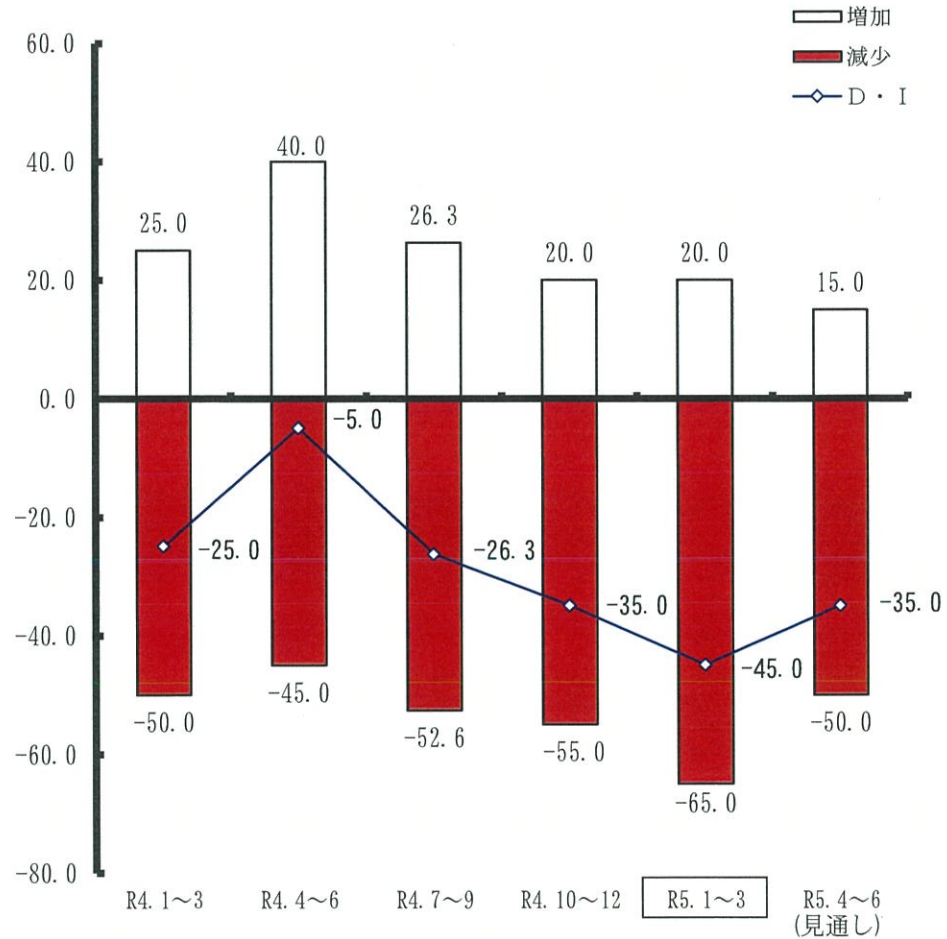


<来期見通し>



建設業の売上高D・Iは、3期連続の低下となり、マイナス幅を拡大しています。今期は、売上高が増加した企業割合が前期と横ばいにとどまり、他方、売上高が減少した企業割合が10.0ポイント増加したため、売上高 D・Iは3期連続の低下となり、△45.0まで悪化しています。

来期は、売上高の増加を予想する企業の割合は減少するものの、売上高の減少を予想する企業の割合が大幅に減少するため、売上高D・Iは改善に転じることが予想されています。



※建設業の売上高は完成工事高



## 採算

<今 期>

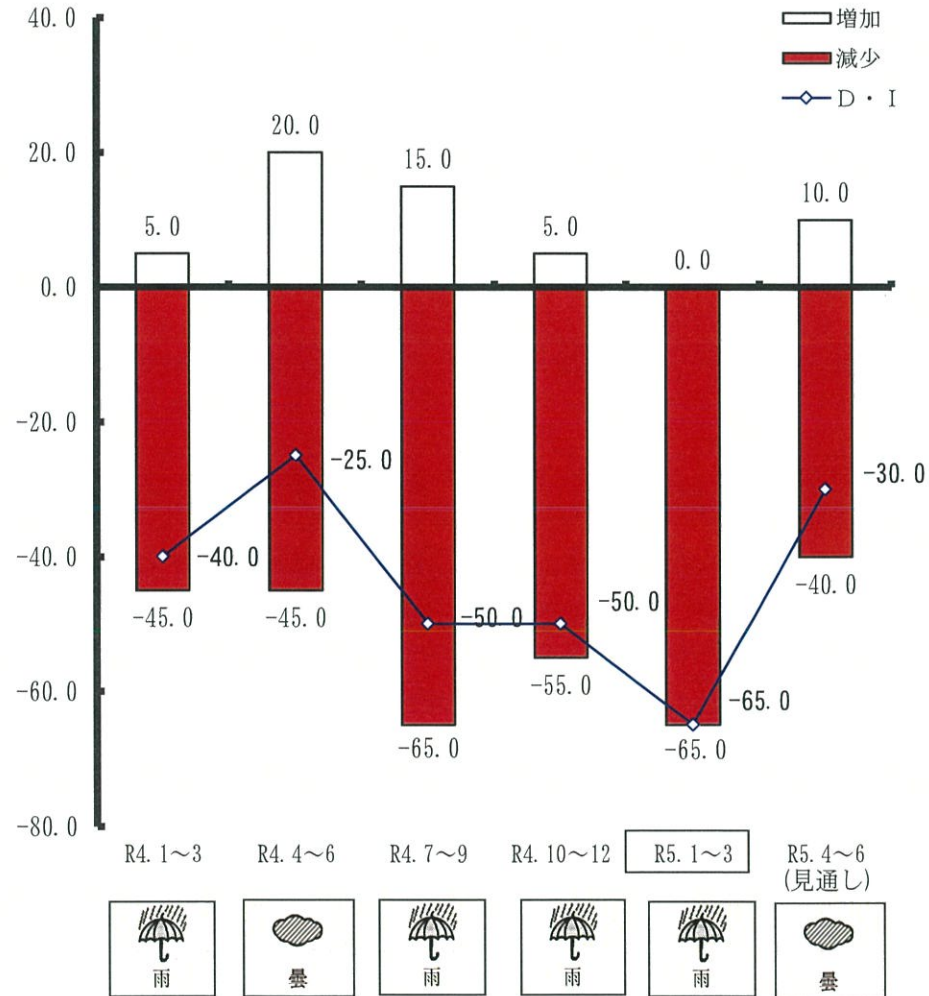


<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合が5.0ポイント減少してゼロとなり、また、採算の悪化を挙げた企業の割合が10.0ポイント増加したため、採算D・Iは減少し、△65.0の低い水準まで悪化しています。

来期は、採算の改善を予想する企業が増加に転じる一方、採算の悪化を予想する企業が減少に転じることから、採算D・Iは大きく改善し、景況天気図も雨から曇りへと変化することが予想されています。

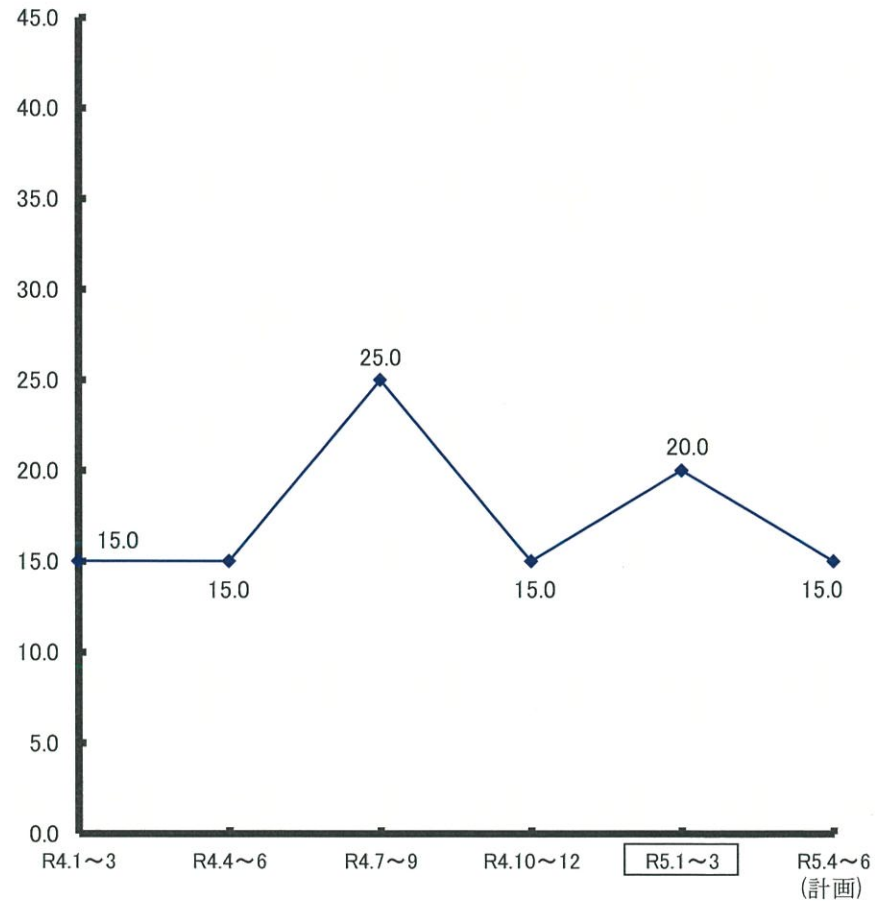


## 設備投資

建設業において設備投資を実施した企業数の割合は、5.0ポイント増加して20.0となっています。

来期は設備投資を実施する企業数の割合は再び減少に転じる見通しで、前期と同レベルの15.0にとどまることが予想されます。

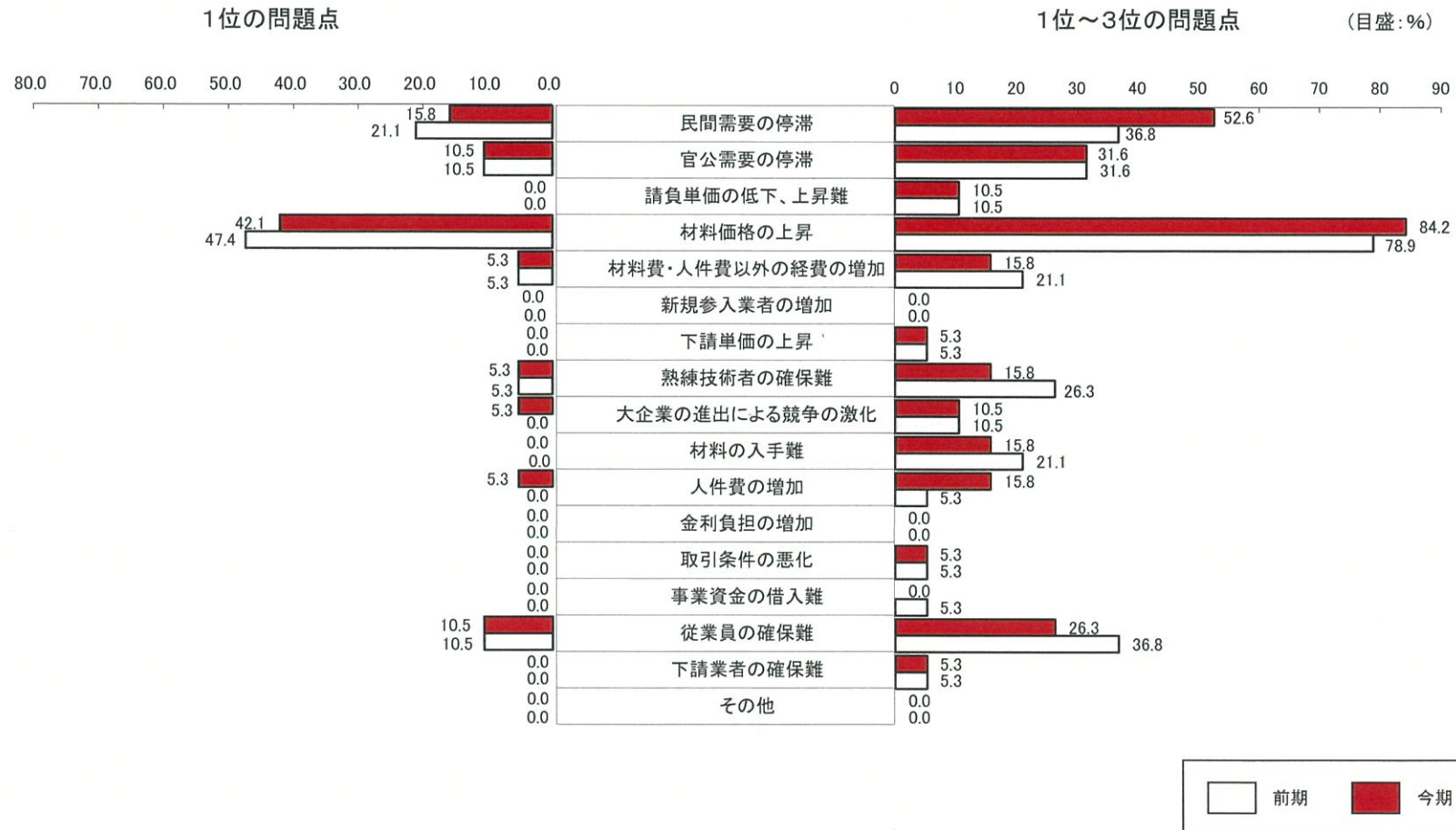
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。



## 経営上の問題点

岩手県 建設業

経営上の問題点の状況(1位と1位~3位)



# 小売業の推移

## 売上高

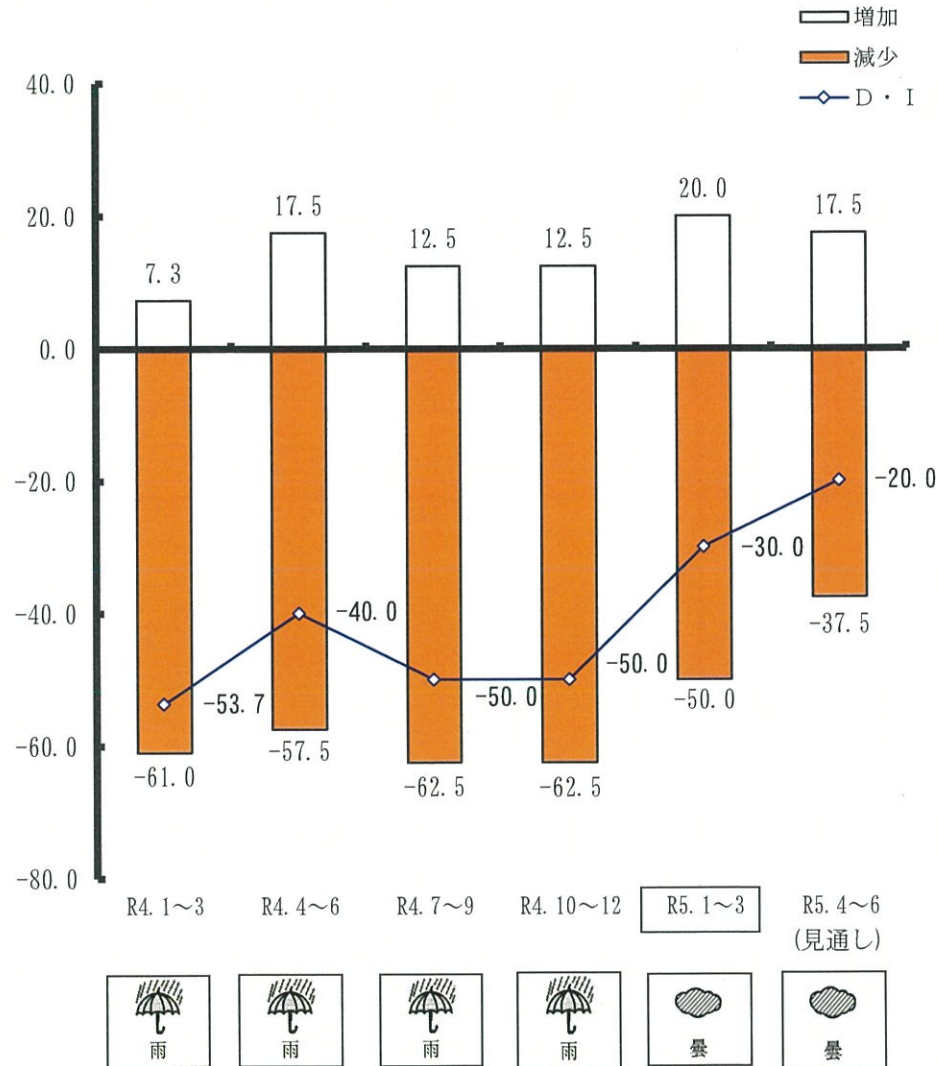
<今 期>

<来期見通し>



今期は、売上高増加企業の割合が増加し、売上高減少企業の割合が減少したことにより、売上高D・Iは20.0ポイントの大幅な増加となり、△30.0まで回復しています。

来期は、売上高の増加を予想する企業割合が減少するものの、売上高減少を予想する企業割合も減少することが見込まれるため、売上高D・Iは今期に引き続き改善する見通しです。





# 小 売 業 の 推 移

## 採 算

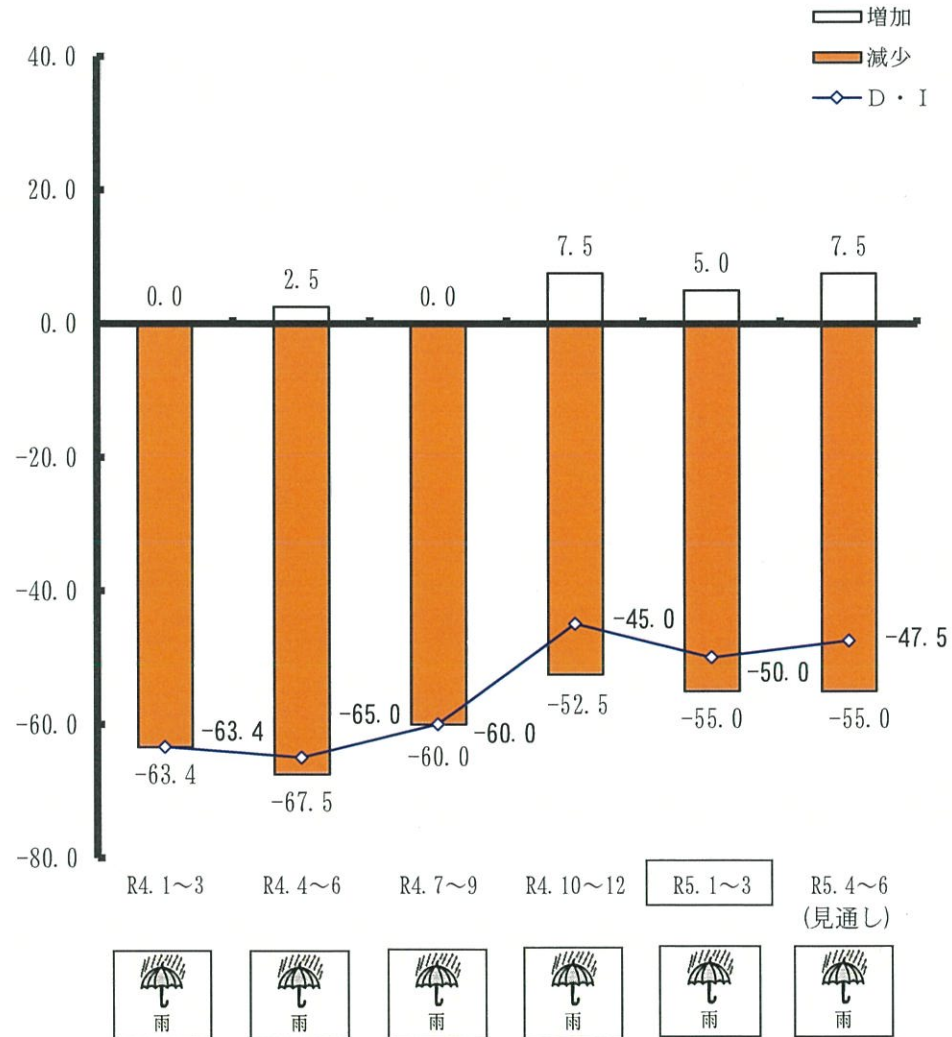
<今 期>

<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合が2.5ポイント減少し、また、採算が悪化した企業割合が2.5ポイント増加したため、採算D・Iは減少に転じ、△50.0まで悪化し、依然として低い水準にとどまっています。

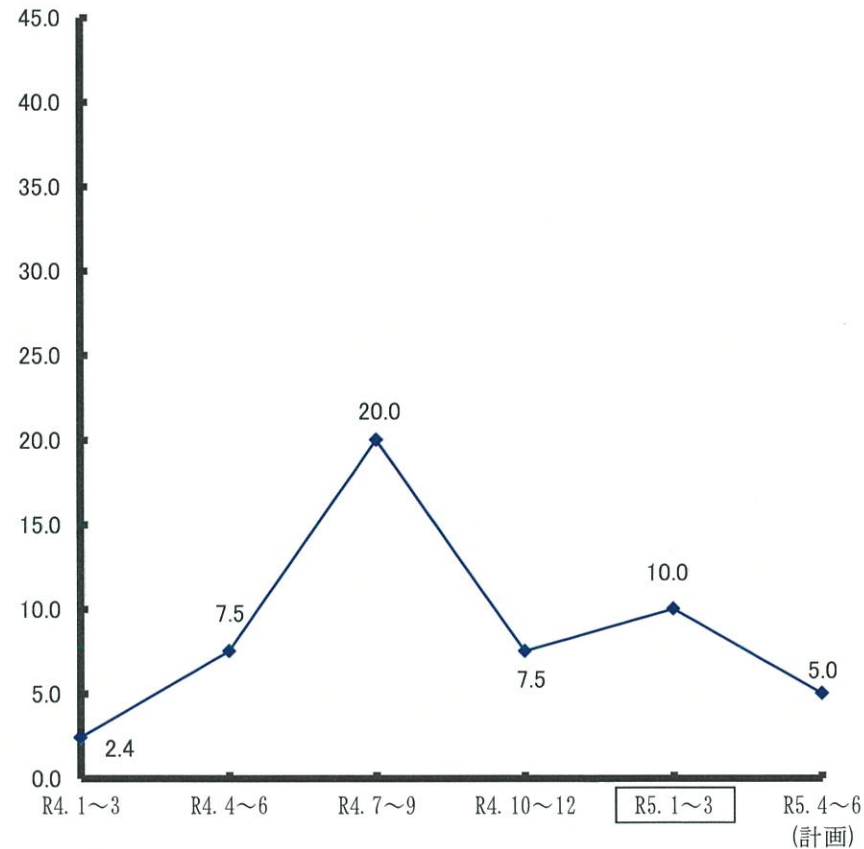
来期は、採算の好転を予想する企業割合が僅かに増加し、また、採算の悪化を予想する企業割合が横ばいにとどまることから、採算D・Iは僅かながら改善に転じる見通しです。



## 設 備 投 資

今期、小売業において設備投資を実施した企業数の割合は僅かながら増加に転じ、10.0となりました。

来期は、設備投資を計画している企業数の割合は再び減少となり、5.0と低いレベルに留まる見通しです。



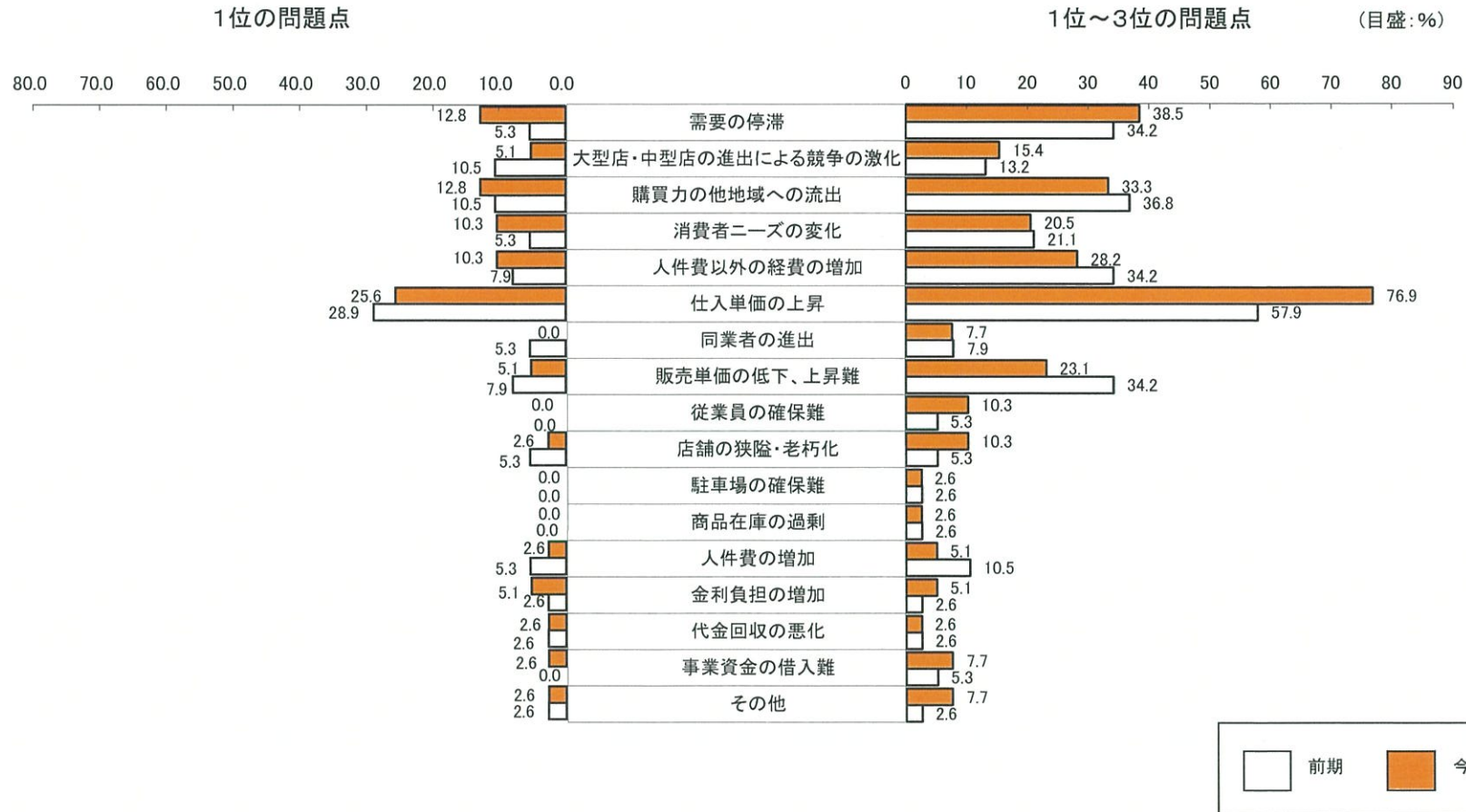
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

# 小売業の推移

## 経営上の問題点

岩手県 小売業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



# サービス業の推移

## 売上高

<今 期>



曇

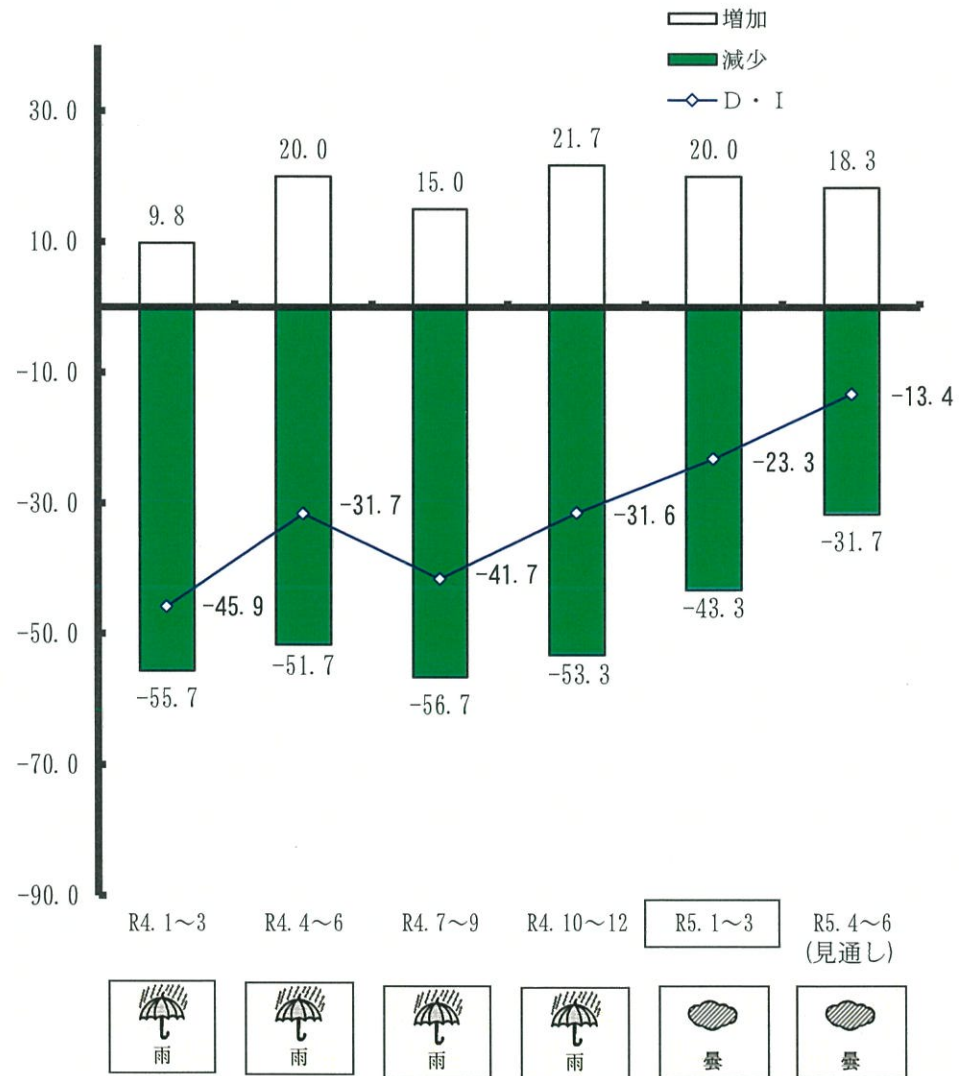
<来期見通し>



曇

今期は、売上高増加企業の割合が1.7ポイント減少したものの、売上高減少企業の割合が10.0ポイント減少したため、売上高D・Iは8.3ポイント増加し、△23.3まで回復しました。

来期は、売上高増加を予想する企業の割合は減少するものの、売上高減少を予想する企業割合が大幅に減少することから、売上高D・Iは大幅に改善する見通しです。



# サービス業の推移

## 採算

<今 期>

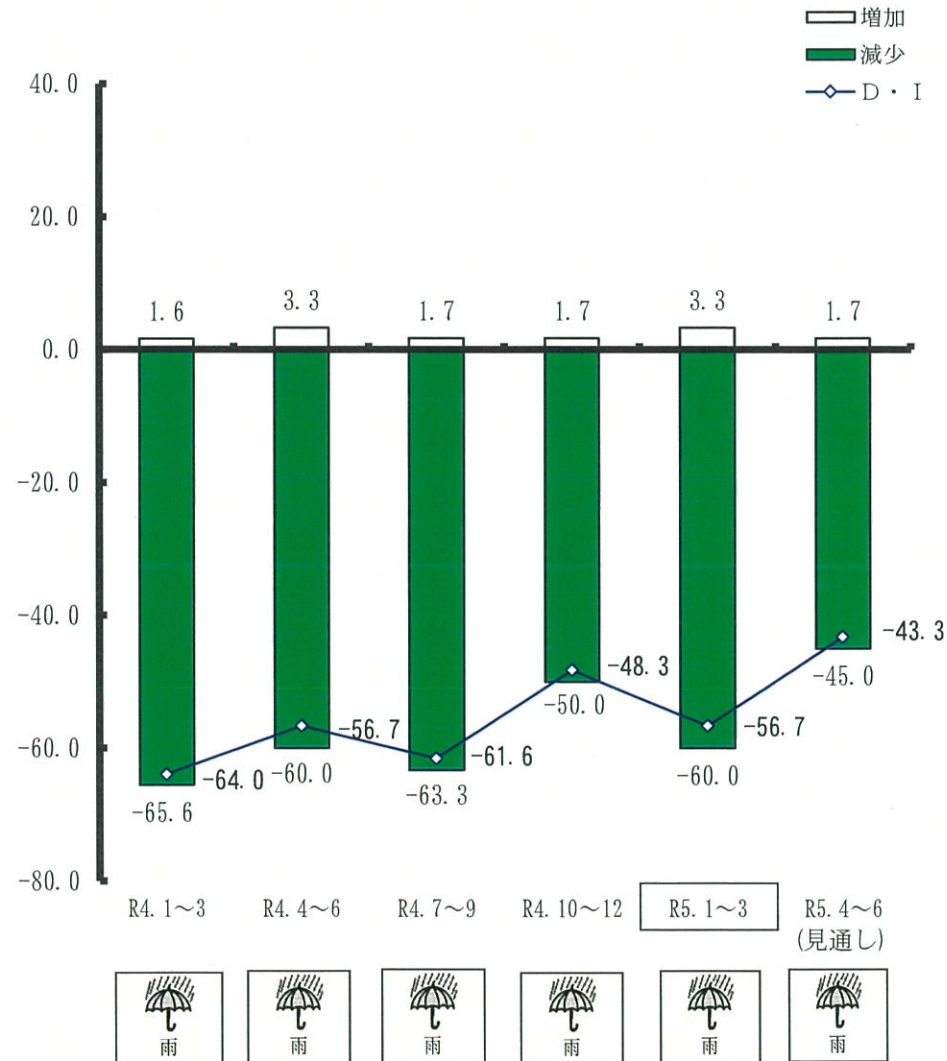


<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業割合が前期に引き続き低い水準に留まり、また、採算が悪化した企業割合が10.0ポイント増加したことから、採算D・Iは再び減少に転じ、△56.7まで悪化しています。

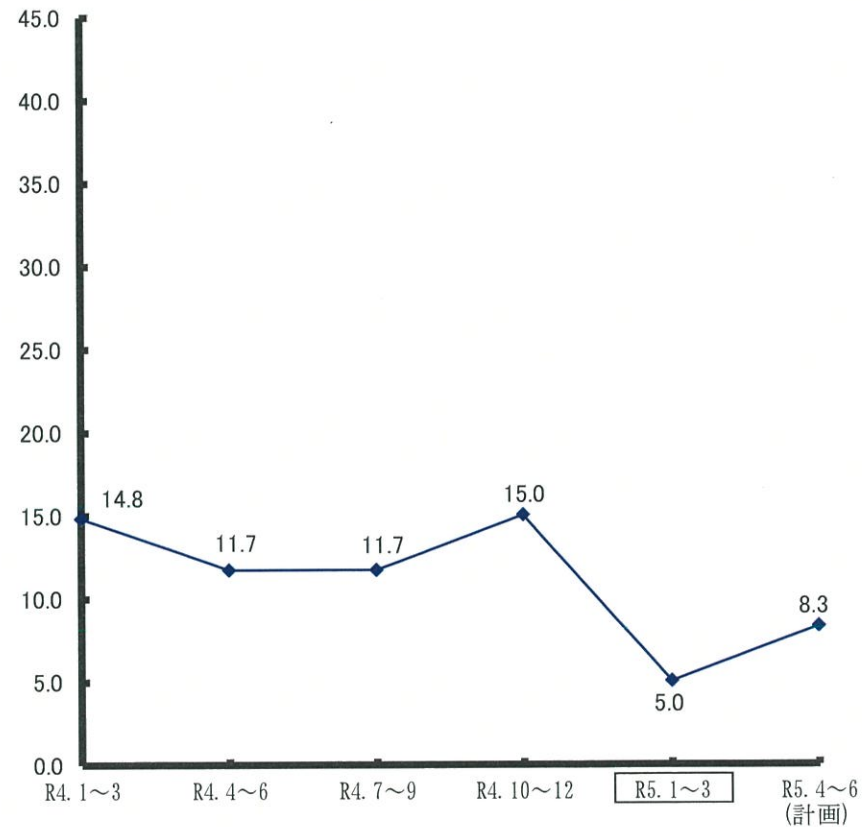
来期は、採算の改善を予想する企業割合は僅かに減少するものの、採算の悪化を予想する企業割合が大幅に減少することから、採算D・Iは今期を含む直近5期で最も高いレベルである△43.3まで改善する見通しです。



## 設備投資

今期設備投資を実施した企業数の割合は、減少に転じ、5.0まで低下しました。

来期は、設備投資を実施する企業数の割合は増加に転じ、8.3まで回復する見通しです。



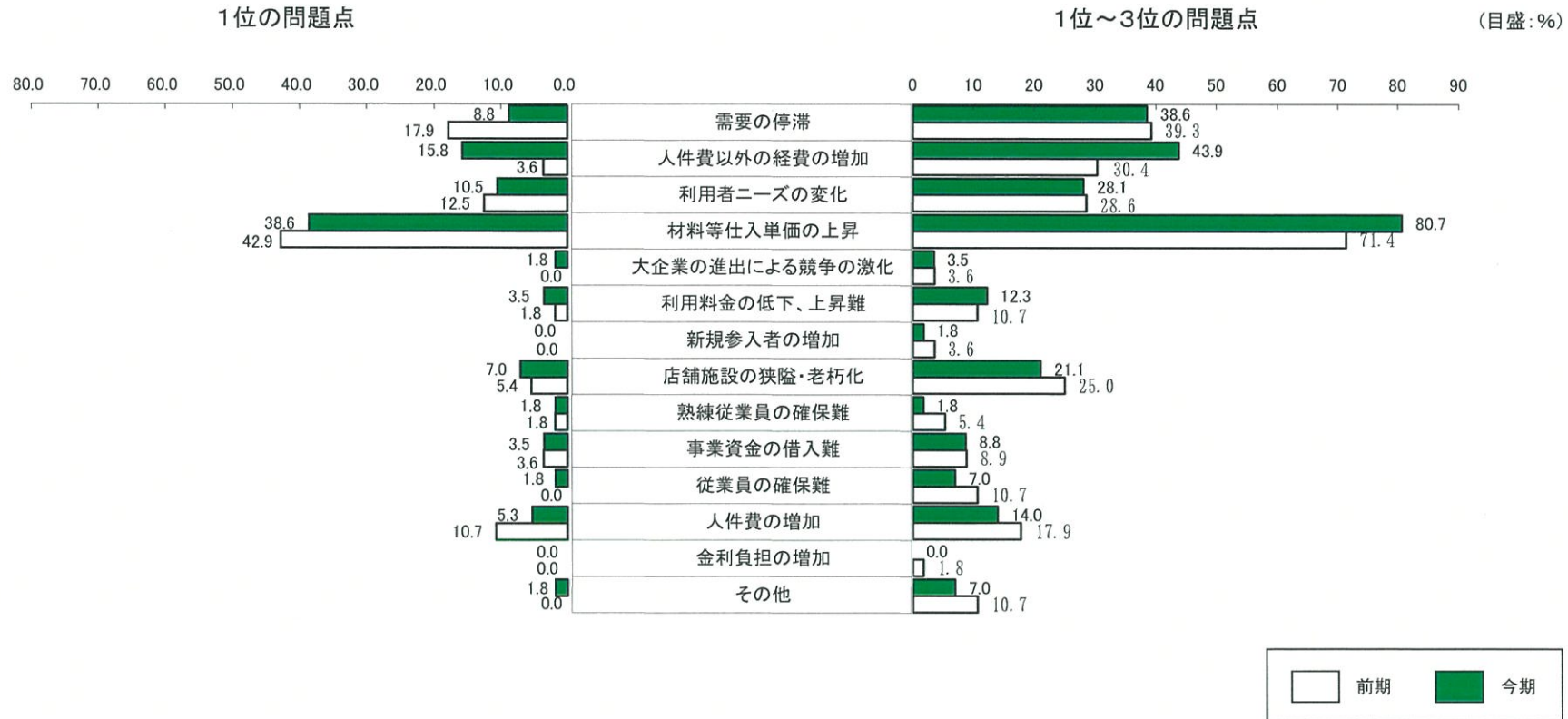
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

# サービス業の推移

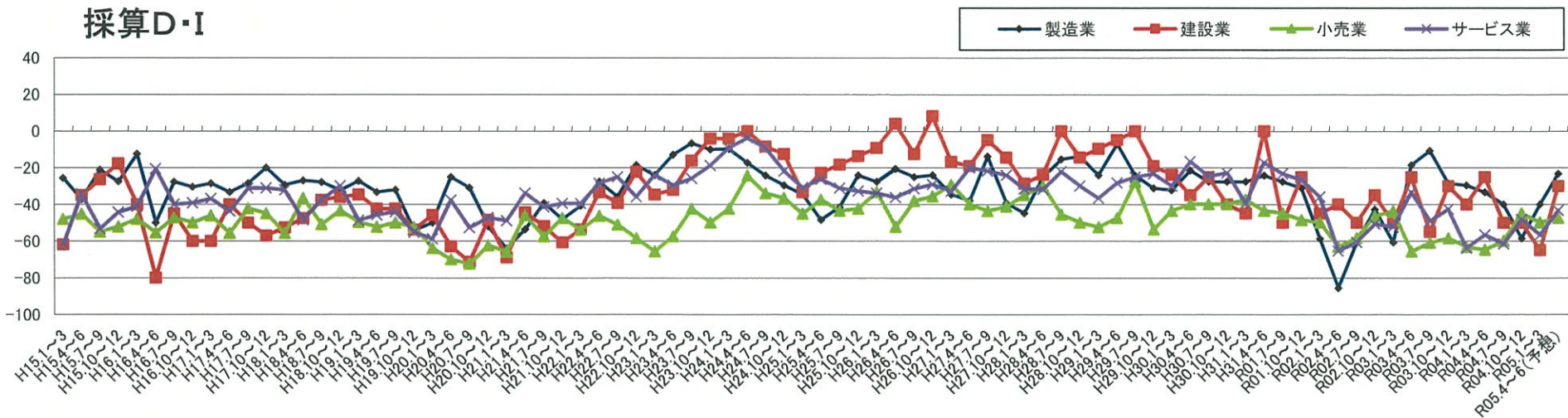
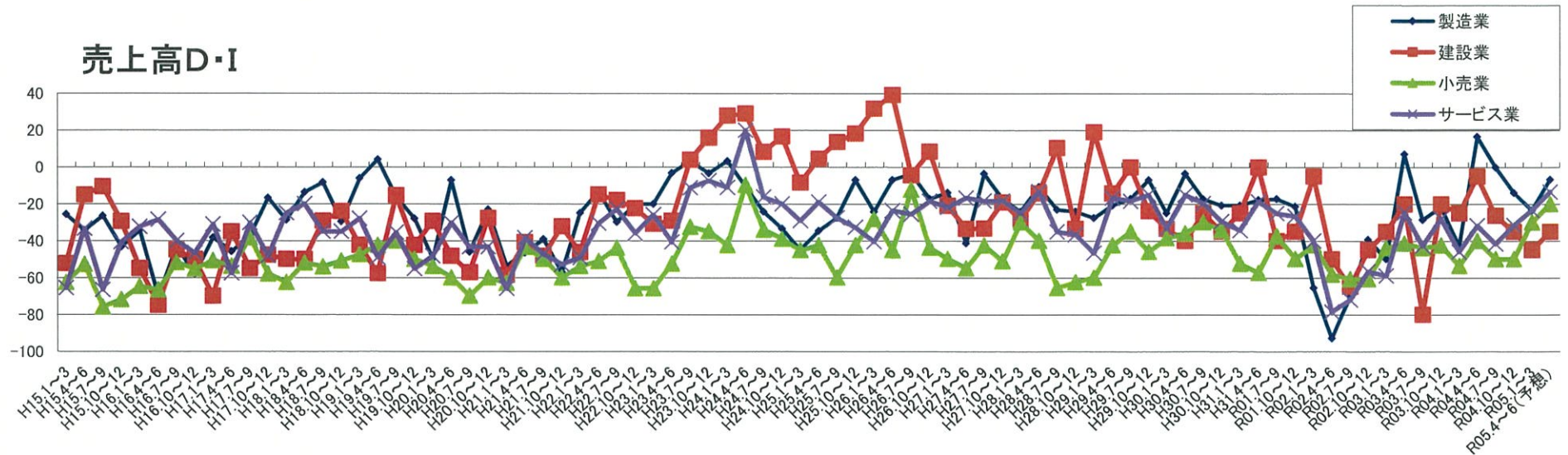
## 経営上の問題点

岩手県 サービス業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



# 全産業の過去データの推移(平成15年1月以降)





# 集 計 資 料

# 調 査 要 項

1. 調査対象 (1) 対象地区 県内10商工会地区 遠野、陸前高田、葛巻町、岩手町、紫波町  
(商工会名) 西和賀、岩泉、普代、軽米町、九戸村
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 150 企業
2. 調査対象期間 令和5年1月～3月を対象とし、調査時点は令和5年3月1日としました。
3. 調査方法 (1) 商工会の経営指導員が訪問面接し、聞き取りにより行いました。  
(2) 調査対象地区の設定は、商工会地区市町村人口規模別の実態を勘案して行い、調査対象事業の抽出は、業種規模等有意選出により行いました。

## 4. 対象企業等内訳

業種	項目	対 象 企 業 数	回 答 企 業 数	回 答 率 ( % )
製造業 (地域産業)		30 ( 20.0 )	30 ( 20.0 )	100.0
建設業		20 ( 13.3 )	20 ( 13.3 )	100.0
小売業		40 ( 26.7 )	40 ( 26.7 )	100.0
サービス業		60 ( 40.0 )	60 ( 40.0 )	100.0
		150 ( 100.0 )	150 ( 100.0 )	100.0

(注) カッコ内の数字は、構成比 (%) を表す。

5. その他 本報告書中のD・Iとは、ディフュージョン・インデックス (景気動向指数) の略で、各調査項目についての増加 (上昇、好転、長期化) 企業割合と減少 (低下、悪化、短期化) 企業割合の差を示すものであります。